

小学校給食に対する教師の関心度と児童の嗜好との関係

斎藤 礼子

by SAITO, Reiko

On the survey of the school lunch feeding

—How does the teachers interest influence the taste of the children in the elementary school?—

The evaluation of the school lunch feeding is different after the characters of teachers concerned. For example, some of them appreciate it highly but the others do not. The reports on the school lunch feeding practice which were given by our students declare that the food leaving is different in each classes. This fact may say that the taste of the children is strongly influenced by that of the teachers.

The author has concluded as follows:

- 1) Generally, there are few schools in which the guidance of meals is practically performed. The male teachers are less potent than the female teachers.
- 2) In the case of the male teachers the guidance is less wide spread in the suburban area than in the metropolitan area.
- 3) As a whole, the male children are fairly interested in the menu of the lunch.
- 4) The higher school grade shows the smaller deviation in the taste.
- 5) The boys have stronger self control against the taste of the food.
- 6) As to the milk, the sweet tasted drinks which contain coffee or cocoa are more favorite than the milk only.
- 7) The parents of the school children appreciate highly the school lunch feeding.

I はじめに

年々完全給食校が増加し、給食の形態も各校の実情により学校単独方式、センター方式による共同調理のいずれかがとられ、その普及と充実はすばらしいものがある。そうした中にも、教師の中から経済の成長と社会文化の発達とによって「今さら、給食でもあるまい」とか子供の食生活については父兄がやるべきである等の意見を耳にする。

本学学生が、学校給食実習で児童と共に昼食をとり感じたことを彼女等の報告の中からひろってみると同じ献立でもクラスにより残食量に開きがある。これに対し学生は児童が絶対的信頼を抱いている教師の給食に対する熱意が児童の嗜好に影響しているのではないかとうたっている。この点について著者は、教師が自発的に給食に関する知識を吸収して積極的な指導をしているか、児童

の自由意志にまかせているか、無関心主義か、放任主義かを知るために行なった調査について報告する。

II 調査対象

調査地区として環境を異にする都内と近県、離島を選び比較することとした。

実施年度		昭和41年度		昭和42年度	
		都内	近県	島	
種別					
小 学 校		18校	5校	6校	
教 師	男	149名	48名	32名	
	女	125名	64名	11名	
児 童	低学年	男	77名	—	
		女	64名	—	
	中学年	男	118名	202名	164名
		女	110名	199名	132名
	高学年	男	161名	211名	182名
		女	139名	226名	183名

概況

1) 都内(渋谷区)

- ① 東京都 23 区の南西にあり、都全体からみると東に片寄っている。
- ② 山手といわれる武蔵野台地の北端部にあっている。
- ③ 人口は、将来副都心として発展するにつれ、都市公害などの増大による生活環境の悪化により次第に減少してゆくものと推定される。
- ④ 住民の職業は、6～7割がサラリーマン、3割程が商業その他。

⑤ 児童の遊び場は、公共遊園地使用。

2) 近 県(藤市)

- ① 埼玉県南端に位置し、川口市と浦和市には含まれている。
- ② 首府東京の衛星都市という性格から、工場、住宅などの建設がめざましく年々人口の増加をたどっており、しかも全国最狭の市であるため人口密度は全国第一位である。この人口増加の傾向は、農地の宅地化、交通の便と地の利などにより益々大きくなっていくといわれている。
- ③ 住民の職業は、ほとんどが商工業、2～3割が東京へのサラリーマン、1割程が農業。
- ④ 児童の遊び場は自由である。

3) 島(伊豆諸島のうち三宅島、新島)

- ① 富士火山帯海底山脈の山頂部が海上に現われたもので、火山列島を形成している。
- ② 気候は、黒潮に洗われる海洋性気候のため、冬暖かく夏は涼しい。
- ③ 殆んどの家庭が水産、農産、畜産、林業に従事し中でも海草類生産物が目立って多い。
- ④ 食生活は、米飯、雑炊、芋食で雑炊は米、麦、さつまいも、海草、貝などを入れみそで味つけしたものである。最近ではインスタント食品が食生活の改善に刺激を与え多く利用されるようになってきている。
- ⑤ 児童の遊び場、交通事故の心配がなく自由である。

III 調査内容

1. 教師 関心度 I, II
2. 児童 嗜好 } 同一内容
3. 家庭 関心度 III

内容は、表1、表4、表6のとおりである。

IV 調査方法並びに調査期間

表1, 表4, 表6(離島のみ)の調査について都内は区の給食研究会を通じ, また近県, 離島は教育委員会を通じて各校の協力を得た。期間は, 都内, 近県は昭和41年7月4日から7月9日, 離島は昭和42年6月27日から7月8日までとし, 教師は期間内適ぎに, 児童は期間内適ぎに教室内で, 家庭へは期間内適ぎに児童を通じて実施した。

V 集計並びに結果

- アンケート用紙より, 都内グループ, 近県グループ, 離島グループの三群にわけて男女別に実数を集計した。(表2, 表3, 表5)
- さらに関心度Ⅰ, 嗜好調査は「採点法」, 関心度Ⅱ, 家庭調査は「百分率法」を用いて統計処理を行った。

給食に関する調査

(表 1)

(年) ○○教育委員会

() 小学校(男・女)			
先生方には児童の教育のため日々ご多忙のところ誠に恐縮でございますが学校給食の向上を計るため次のような調査を行ない今後の参考に致したくご協力の程お願い申し上げます。			
関心度 Ⅰ 次の適当なところに○印を右の欄の番号につけて下さい			
(1) 給食に関心がありますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(2) 現在の給食に満足していますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(3) 教室内で児童と会食していますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(4) 児童に給食日誌をつけさせていますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(5) その日の献立内容について児童と話し合いますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(6) 教室内で栄養の話をしますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
(7) 給食時に流れてくる栄養の話しを活用していますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
関心度 Ⅱ 次の文より該当する番号のところの解答欄に○印をつけて下さい			[解答欄]
(1) 学校給食は児童の心身の円満な発達に重要と思っている			
(2) 学校給食は家庭での偏食きょうせいにより機会と思っている			
(3) 理科, 社会科, 家庭科等の学習を学校給食に役立たせている			
(4) 同一の食事は児童に正しい食事マナーを教えるのにより機会であると思う			
(5) 児童の偏食きょうせいには, より一層の力を入れている			
(6) 給食は正しい栄養知識, 衛生知識を教えるのにより機会であると思う			
(7) 給食は児童にとって重要であり適当な指導書もある			
(8) 給食が児童の体位向上にそれ程役立つとは思わない, ある年令がくれば大きくなるから			
(9) 時間が足りないから栄養教育まで手がまわらない			
(10) 栄養についてよくわからないので教育まではほど遠いように思う			
(11) 給食時に流れてくる栄養の話しをもとに指導しやすい			

現在の学校給食に対するご意見をお書き下さい。(一部分「新栄養指導」桑原書参考)

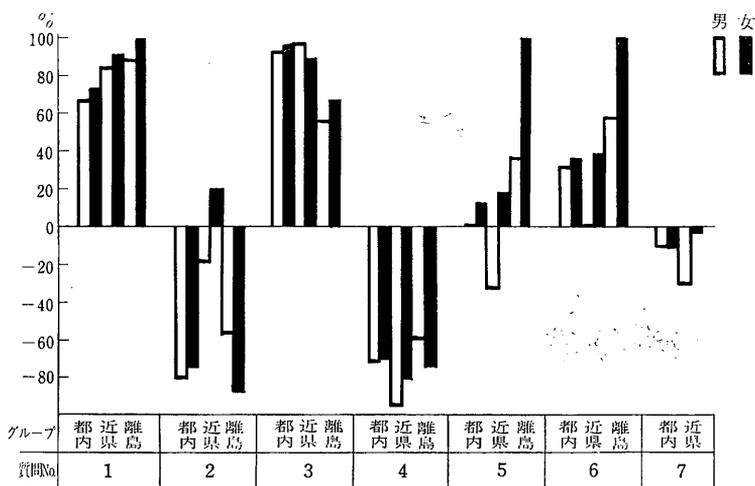
関 心 度 I

(表 2) (実 数 値)

(採点法による数値%)

No.		都内グループ		近県グループ		離島グループ		都内グループ		近県グループ		離島グループ	
		男 149名	女 125名	男 48名	女 64名	男 32名	女 11名	男 149名	女 125名	男 48名	女 64名	男 32名	女 11名
1	は い	117	100	42	59	28	11	68	73	85	91	89	100
	い い え	16	9	1	1	0	0						
2	は い	10	9	14	29	6	0	-81	-75	-19	20	-57	-88
	い い え	130	103	23	16	23	10						
3	は い	141	122	47	59	20	8	93	96	97	89	56	67
	い い え	3	2	0	2	8	0						
4	は い	14	7	0	0	1	1	-72	-70	-96	-81	-60	-75
	い い え	122	94	46	52	19	9						
5	は い	31	30	1	19	13	11	0	12	-33	18	36	100
	い い え	31	15	17	7	4	0						
6	は い	59	53	10	27	18	11	32	36	0	38	57	100
	い い え	12	8	10	3	3	0						
7	は い	30	24	3	15			-11	-11	-31	-3		
	い い え	46	38	18	27								

図 1 関心度 I グラフ



齋藤：小学校給食に対する教師の関心度と児童の嗜好との関係

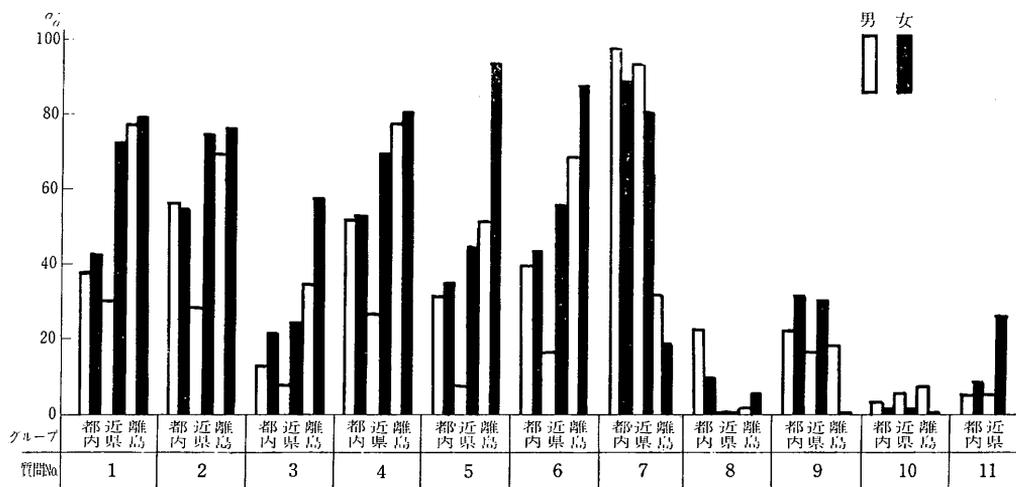
関心度Ⅱ

(表 3) (実数値)

(百分率による数値%)

No.	都内グループ		近県グループ		離島グループ		都内グループ		近県グループ		離島グループ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	58	54	15	47	25	8	38	43	31	73	78	80
2	85	73	14	48	25	8	57	50	29	75	70	77
3	19	28	4	16	11	6	13	22	8	25	35	58
4	77	66	13	45	25	9	52	53	27	70	78	81
5	47	44	4	29	16	10	32	35	8	45	52	94
6	59	55	8	36	25	9	40	44	17	56	69	88
7	90	86	97	88	12	2	93	89	94	81	32	19
8	34	12	0	0	1	1	23	10	0	0	2	6
9	35	40	8	20	7	0	23	32	17	31	19	0
10	6	3	3	1	4	0	4	2	6	2	8	0
11	9	11	3	17			6	9	6	27		

図2 関心度Ⅱグラフ



(表 4) しこうちょうさ () 小学校 () 年 (男・女)

I 次のたべもので「すき」「きらい」「どちらでもない」のどれか一つに○印をつけてください

たべもの	すき	きらい	どちらでもない	たべもの	すき	きらい	どちらでもない	たべもの	すき	きらい	どちらでもない
ごはん				にたさかな				ほうれんそう			
うどん				やいたさかな				たまねぎ			
日本そば				魚のフライ				きゃべつ			
ラーメン				魚のてんぷら				ごぼう			
パン				ちくわ				たけのこ			
スパゲティ				さつまあげ				にんじん			
カレーライス				肉				ながねぎ			
のりまきずし				ハム				ピーマン			
いなりずし				ソーセージ				かぼちゃ			
さつまいも				レバー				トマト			
じゃがいも				コロッケ				パセリ			
バター				トンカツ				きゅうり			
ジャム				たまご(なま)				なす			
ピーナツバター				ゆでたまご				みかん			
チョコレートクリーム				たまごやき				りんご			
にまめ				めだまやき				もも			
とうふ				牛乳				こんぶ			
なっとう				チーズ				のり			

II 次のことについてよいと思うところに○印をつけてください

1	給食の時間はたのしみですか	はい	いいえ	そうでもない
2	給食はおいしいですか	はい	いいえ	そうでもない
3	給食に嫌いなものが出たらどうしますか	残す	先生にいわれるからたべる	その他
		友だちがたべるからたべる		

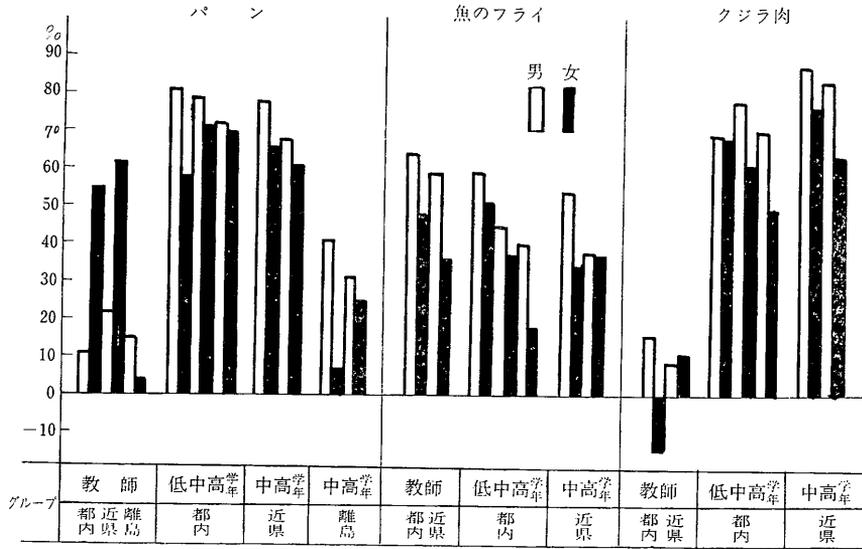
III 次の番号のどれか一つに○印をつけてください

1	ミルクがあつければすき
2	ミルクがつめたければすき
3	ミルクがあまければすき
4	ココアやコーヒーが入っていればすき
5	ミルクは(あつくても、つめたくても、あまくても)どんなにしてもすき
6	ミルクのにおいがきらい
7	ミルクは(あつくても、つめたくても、あまくても)どんなにしてもきらい

(一部分医歯薬出版発行の「嗜好調査」参考)

齋藤：小学校給食に対する教師の関心度と児童の嗜好との関係

(図3) しょうちょうさ一例グラフ



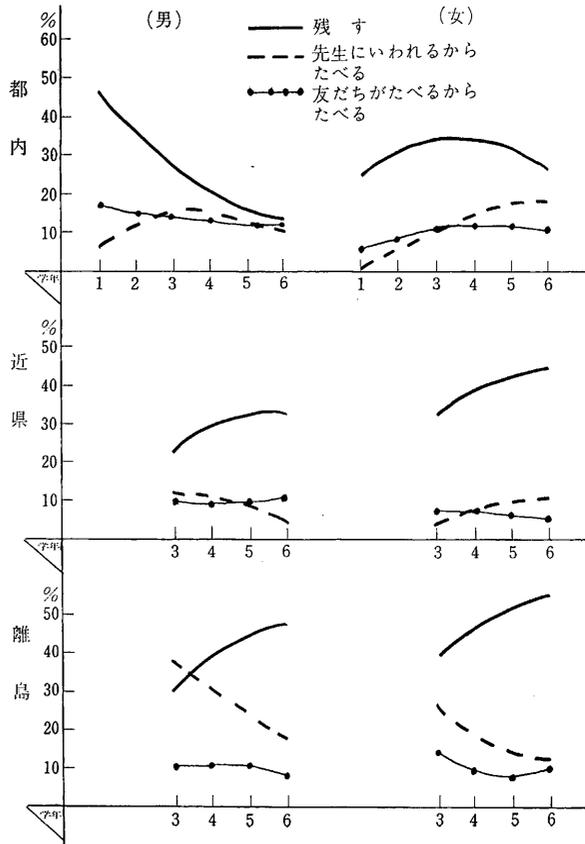
(表 5)

給食に嫌いなものが出たらどうしますか

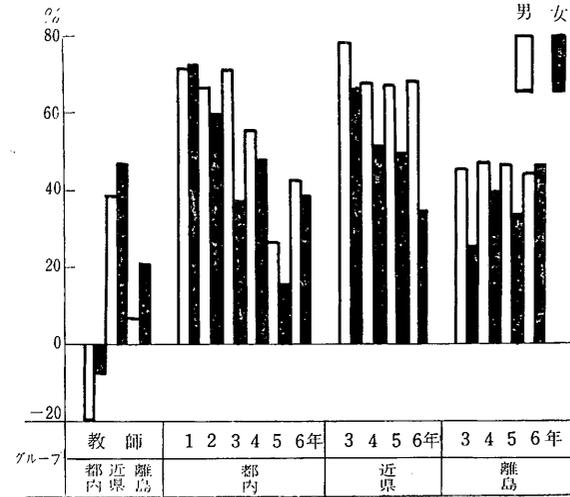
- I 残す
- II 先生に言われるからたべる
- III 友だちがたべるからたべる

グループ	都 内						近 県						離 島																
	1		2		3		4		5		6		3		4		5		6										
種別	学 年		性 別		人 数		学 年		性 別		人 数		学 年		性 別		人 数		学 年		性 別		人 数						
	実 数	I	17	6	11	9	10	14	21	20	16	19	9	18	23	37	19	24	38	51	29	47	16	22	41	45	57		
II		3	0	2	2	8	7	12	7	7	10	6	2	11	1	13	10	4	3	4	12	34	17	13	12	18	6	16	12
III		2	4	2	2	8	6	11	5	12	5	9	10	12	9	9	7	10	5	13	11	11	12	11	5	3	6	8	12
%	I	46	24	27	23	23	25	28	37	20	33	11	22	26	36	17	25	34	45	29	42	25	36	49	62	50	54	46	53
	II	8	0	5	5	19	12	16	13	9	17	8	3	12	1	12	10	4	3	4	10	44	28	15	17	23	8	16	11
	III	25	16	5	5	19	11	15	9	15	9	11	12	13	9	8	7	9	4	13	10	14	20	13	7	4	8	8	11

(図4) 給食に嫌いなものが出たらどうしますか



(図5) 給食の時間は楽しみですか



家庭調査

(図6) 学校給食に対する家庭の関心度グラフ

(表6) (年)〇〇教育委員会

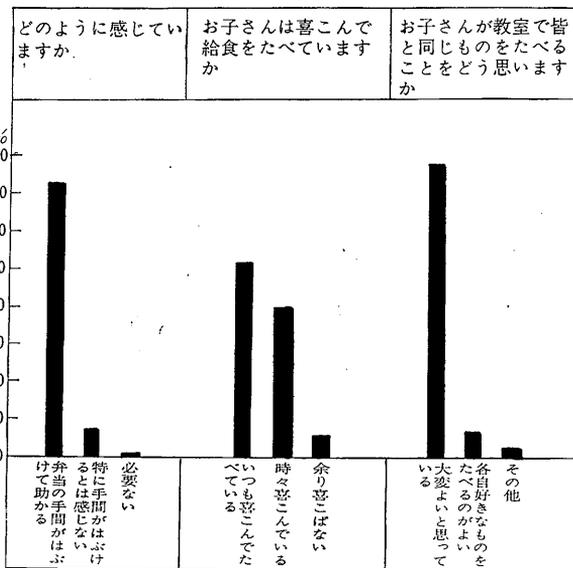
日々ご多忙のところ誠に恐縮でございますが学校給食の向上を計るため次のような調査を行ない今後の参考に致したくよろしくご協力の程お願い申し上げます

記入者(児童との続柄) _____

I 学校給食について

よいと思う番号一つに○印をつけて下さい

①	学校給食についてどのように感じていますか
1	弁当をつくらなくてすむのでとても助かる
2	とくに手間がはぶけるとは感じない
3	必要ないと思う
②	おさんは喜んで給食をたべていますか
1	いつも喜んでたべている
2	時々喜んでたべている
3	あまり喜ばない→それはなぜですか
イ	おいしくない
ロ	調理のしかたがいつもきまっている
ハ	きれいなものが多い
ニ	その他
③	おさんが教室で皆と同じものをたべるとをどう思いますか
1	たいへんよいと思う
2	それぞれが好きなのをたべる方がよいと思う
3	その他
④	学校給食の費用についてどう思いますか
1	高いから安くしてほしい
2	高くても仕方がない
3	今のままでよい
⑤	学校給食が始まってからおさんが嫌いなたべもので好きになったものがありますか
1	ある→それはどんな食べものですか()
2	ない



VI まとめ

1. 全般に教師は、給食が児童に重要であるとわかっていても、実際には給食指導が実施されていないところが多く、女教師より男教師にその点がみられた。(表2, 3., 図1, 2参照)
2. 都内と近県では、特に近県男教師の給食指導実践率が低い。(同上)
3. 給食に対する興味は一般的に男子が多いようだ。(図5)
4. 好き嫌いの差は、学年の上昇とともに少なくなる。この傾向は離島、都会共に変わらないが、その移行は離島の場合はわずかである。(図3)
5. 嫌いなものが給食に出ても残す率の少いのは男子の方である。(表5, 図4)
6. 給食に対する関心は、友達相互間よりも教師による方が大であった。(表5, 図4)
7. 学校給食に対する家庭の評価は高い。(図6)

学校給食についてご意見、ご希望があまりしたらお書き下さい

以上の結果から教師の給食への関心を高めるためには、教育長、校長の関心度調査と共に知識の普及を痛感した。一方学校単独方式からセンター方式(施設設備の向上, 学校格差の解消, 経費の節約, 事務能率の向上を目標に地域の中央に一方所給食施設を設け, そこで調理したものを配送車で各校へ届ける)に移行しつつある昨今, 教師の給食に対する関心度は一層低下するのではないかと考える。次回は全国にわたり給食担当者からみた校長の給食への関心度を調査する試みである。

東京家政大学研究紀要第9集

最後にこの調査にあたりご協力頂きました本学金野新次教授，市沢真理子助手，教育委員会並びに小学校の皆様，統計のご指導を仰ぎました東京大学田中恒男助教授，本稿のご校閲を賜わりました本学関根秀三郎教授に感謝の意を表します。

(なお，本稿は，昭和41年11月22日，昭和42年11月18日，日本栄養改善学会第13回，第14回で発表したものの一部を含む)。